

令和元年6月24日現在

機関番号：23102

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2018

課題番号：25870602

研究課題名(和文)二つの帝国と黒人教育：南アフリカにおける米国南部黒人学校の移植に関する社会史研究

研究課題名(英文)Two Empires and Black Education: New Social History on Implanting U.S. Southern Black Schools in South Africa

研究代表者

荒木 和華子(Araki, Wakako)

新潟県立大学・国際地域学部・講師

研究者番号：90581778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：19世紀半ば以降の米国南部において黒人教育のモデルとされた元奴隷のための学校「ペン学校」の展開と、南アフリカへの移植の意味を帝国主義と教育に関する研究課題として考察した。研究の前半では、ペン学校を支えた思想を当時の奴隷制廃止の立場の機関紙他一次資料から検証し、南アフリカにおける教育史、人種・ジェンダーをめぐる帝国主義研究の読み込みを行った。後半では様々な機関での史料調査を元にさらに考察を深め、最終年度には他機関から招聘した研究者4名を講師とした教育研究交流セミナーを開催し、自身も「米国南部黒人教育モデルの移動」というタイトルで研究報告を行ったほか、二つの媒体に本研究課題に関する論考を掲載した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

南部における代表的なペン学校の例が示すように、奴隷解放期に着手された黒人教育は当初普遍主義的な教養教育が中心であったが、その後半世紀経つと産業・実業教育へと大きく転換した。その背景には米国南部において人種隔離体制がしかれる中、黒人を肉体労働者として育成し、また男女別に教育カリキュラムを設定するという白人教育政策者やそれに同調した黒人教育者の存在があった。転換後の黒人学校がモデルとして南アフリカをはじめとする他国において参照された。このように特定の教育がモデルとして移植される背景を理解するにあたって、当時の社会体制、背景、人種・階級・ジェンダーの要因が密接に関係していることも明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the development of Penn School--one of the freedpeople's schools established for ex-slaves during the mid-19th century in the U.S. South-- its educational model was considered idealistic for schools for Africans in South Africa. This study seeks the connection with history of Empires and education. During the first half of my research I looked at primary sources of Penn School and abolitionist newspapers while getting information about history of education in South Africa as well as scholarly achievements in history of Empire in association with race and gender. In the latter half of this research, based on researches done at various institutions, I hosted educational-research seminar at my institution inviting 4 scholars. In the past year, I presented a paper entitled "Implantation of American Southern Black Educational Model," and published two articles on this research topic.

研究分野：アメリカ社会史(黒人教育、人種主義、ジェンダー)

キーワード：ペン学校 解放民教育 黒人教育史 南アフリカにおけるアフリカ人学校 教育モデルの移動 人種隔離 (ネオ)アボリショニスト チャールズ・T.ロラム

## 1. 研究開始当初の背景

植民地における学校の設立は「ソフトな帝国主義」であると、かつてブルース・ミングスは述べた。本研究が対象とする米国南部と南アフリカは直接の植民 - 被植民関係にはないが、社会と人種主義が密接に結びついて構成される歴史を保持している点で共通している。パクスブリタニカからパクス・アメリカナーへと大きく転換を遂げた20世紀の初頭に、南アフリカにおける教育者を指揮した官吏・研究者等は、自国のアフリカ人に対する教育政策を検討した際に、米国南部農村の黒人学校に倣うよう指示した。その中でも特に模範とされたのは、19世紀半ばに解放奴隷を対象生徒として、南部サウス・カロライナ州のシーアイランズに設立されて以来1世紀もの間学校運営を続けたペン学校であり、この学校を事例として考察することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、アメリカ合衆国発の黒人教育が、大西洋を横断し移植される歴史的背景と教育実践の意味を、国家、財団当の教育支援組織、教師や生徒・コミュニティ等の複数のアクターの関係性に着目して、明らかにすることである。大英帝国が衰退し、米国が帝国主義化し世界に台頭し始める20世紀前半において、2つの帝国主義の狭間で黒人教育はどのような役割を担ったのであろうか。米国内ならびに南アフリカにおいて、黒人教育のモデルとして参照されたペン学校を事例とした社会史研究により、この問いを解明することを目的とする。

## 3. 研究の方法

本研究の目的遂行のために有効なアプローチは社会史研究であると考えた。研究対象地域は米国南部と南アフリカであり、黒人教育のモデルとされたペン学校の展開と移植について、実際に教育に携わったアクターの声を検証することとした。その際に、1. ペン学校と米国内での黒人学校との関係(ハンプトンやタスキギー学院等の黒人教育機関との関係性)、2. ペン学校の実証的研究(教師の手記や生徒の記録、理事会の記録、学校宣伝用のパンフレット、写真、政府等による教育内容の報告書等)3. 南アフリカへ移植される背景(フェルプスストークス基金、代表的な教育官吏の黒人教育論、人種隔離政策等)のそれぞれについて社会史研究を行う際に、帝国主義、人種隔離制度、ジェンダー、教育史の文脈に位置付けるという方法を用いることにした。

## 4. 研究成果

19世紀半ば以降の米国南部において黒人教育のモデルとされた元奴隷のための学校「ペン学校」の展開と、南アフリカへの移植の意味を帝国主義と教育に関する研究課題として考察した。研究の前半では、まず初年度に既存の層の厚い帝国主義研究、ポストコロニアル研究、教育史研究から多くを学ぶために、幅広い関連文献の収集、出張、資料調査、学会への出席、国内外からの研究者の招聘を行い、理論的枠組みと人的ネットワークの構築をはかった。その後、ペン学校を支えた思想を当時の奴隷制廃止の立場の機関紙他一次資料から検証し、南アフリカにおける教育史、人種・ジェンダーをめぐる帝国主義研究に焦点をあてて二次資料の読み込みを行った。研究中断を経て、再開後、後半では外交史料館、一橋大学、普連土学園等様々な機関での史料調査を元にさらに考察を深め、最終年度には他機関から招聘した研究者4名を講師とした教育研究交流セミナー「教育と社会を研究する 多様性と移動の視点から」を開催し、主催者として企画・運営を行い、当日は司会をつとめた他、自身も「米国南部黒人教育モデルの移動」というタイトルで研究報告を行った。セミナーには研究者、教職員、学生(大学院・学部)等多くの参加があり、研究の進展のみならず教育的な効果もあったのではないかと自負している。この様子の一部は大学HPに掲載され、また詳細については報告書の形でまとめることができた。

内容を総括すると、南部における代表的なペン学校の例が示すように、奴隷解放期に着手された黒人教育は当初普遍主義的な教養教育が中心であったが、その後半世紀経つと産業・実業教育へと大きく転換した。その背景には米国南部において人種隔離体制がしかれる中、黒人を肉體労働者として育成し、また男女別に教育カリキュラムを設定するという白人教育政策者やそれに同調した黒人教育者の存在があった。転換後の黒人学校がモデルとして南アフリカをはじめとする他国において参照された。このように特定の教育がモデルとして移植される背景を理解するにあたって、当時の社会体制、背景、人種・階級・ジェンダーの要因が密接に関係していることも明らかとなった。これらの成果を二つの媒体に本研究課題に関する論考を掲載することができた。さらに、白人至上主義と黒人教育の観点からの研究発表の依頼を二つの機関が

ら受けており、本研究をもとに今後、比較研究として特定の教育がモデルとして受け入れられていく社会・歴史的な文脈を教育現場のアクターに着目しつつ丁寧に検討していきたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

荒木和華子「20世紀転換期における米国南部ペン学校の教養教育から実業教育への転換  
南アフリカにおけるアフリカ人の教育モデル移植の背景として」『国際地域研究論集』  
第10号、2019、21 - 34頁

荒木和華子「米国南部黒人教育モデルの南アフリカへの移動に関する試論 人種主義と  
準拠社会の視点から」荒木和華子編著『教育研究交流セミナー「教育と社会」を研究する  
多様性と移動の視点から」報告書」(2019年) 21 - 29頁

〔学会発表〕(計 1 件)

荒木和華子「19世紀後半における南部黒人学校の転換の背景 白人至上主義、二つの黒  
人教育観、そして非政治的な闘いの功罪」、アメリカ学会、2019年

〔図書〕(計 3 件)

荒木和華子編著『教育研究交流セミナー「教育と社会」を研究する 多様性と移動の視  
点から」報告書」(2019年) 62頁。

荒木和華子「国際地域学点描：コラムとキーワード 10. ジェンダー」『国際地域学入門』  
小谷一明、黒田俊郎、水上則子編(勉誠出版、2016年) 268-271頁

荒木和華子「国際地域学点描：コラムとキーワード 20. ポストコロナリアル」『国際地域学  
入門』小谷一明、黒田俊郎、水上則子編(勉誠出版、2016年) 310-313頁

荒木和華子編著(小谷一明、福本圭介他5名著)『2013年度新潟県立大学教育研究高度化  
推進事業シンポジウム「『アイデンティティの政治』再考 ジェンダー/セクシュアリティ、  
階級、文化表象を横断する」の記録」(発行、新潟県立大学 荒木和華子、2014年3月)  
83頁。

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://www.unii.ac.jp/news/6805/>

<https://www.unii.ac.jp/researcher/researcher/555/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。